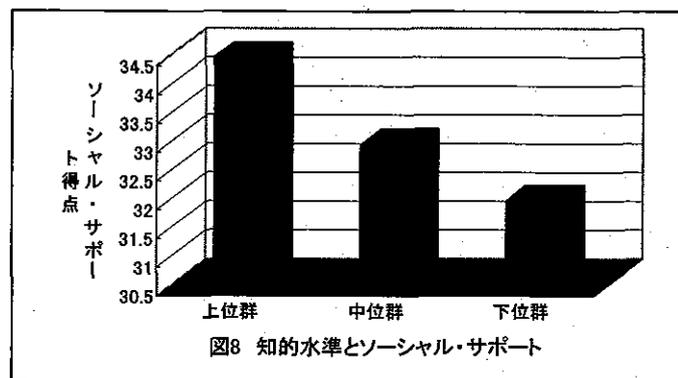


ので、その内容は、①一緒に会って楽しくときを過ごせる人、②留守のときなど用事を頼める人、③気を配ったり思いやったりしてくれる人、④困ったとき気軽に相談できる人、⑤さびしいとき電話をしたり訪ねたりしておしゃべりできる人、⑥元気づけてくれる人、⑦あなたを大切にしたり高く評価してくれる人、⑧心配事や不安なとき親身になって助言してくれる人、⑨一緒にいると落ち着いた気分になれる人、⑩病気で寝込んだとき身の回りの世話をしてくれる人の10の領域を選び、1)何人もいる、2)少しはいる、3)あまりいない、4)ほとんどいない、の4段階尺度で回答を求め、1)への回答を4点、2)を3点、3)を2点、4)を1点とし、総合点でソーシャル・サポート得点としたものである。

知的水準の違いによってソーシャル・サポート得点に違いが見られ、図11に示すように、平均値は、知的上位群が34.45、中位群が32.94、下位群が31.96、であり、知的水準が高くなるにつれてソーシャル・サポート得点が高くなる傾向がみられた。



それらの諸特性間の関係を次に検討することにする。

VI. 各変数間の相互相関

以上の諸特性のほかに身体的健康度として、血圧、脂質、貧血の度合いを測定したが、これらの測定結果にどの程度の関連があるかを検討するために、年齢、日常生活行動調査(5項目)、生きがい満足度調査(3尺度値)、知的水準(かなひろいテスト得点)およびソーシャル・サポート得点、の11変数間の相関値を表にしたのが、表1である。

表1 測定変数間の相関

	年齢	仕事数	役立ち数	自由行動	趣味数	楽しみの数	生きがい	安定満足	積極満足	so.sup.	かな得点	血圧	脂質
年齢	1												
家庭での仕事数	-0.063	1											
役立ち数	-0.312	0.556	1										
自由時間行動数	0.006	0.480	0.432	1									
趣味数	-0.078	0.422	0.376	0.556	1								
楽しみの数	-0.158	0.485	0.523	0.579	0.596	1							
生きがい満足	-0.113	0.298	0.329	0.309	0.299	0.454	1						
安定満足	0.006	0.227	0.216	0.220	0.232	0.358	0.887	1					
積極満足	-0.195	0.306	0.367	0.331	0.302	0.455	0.917	0.629	1				
so.sup.	-0.087	0.163	0.291	0.157	0.131	0.363	0.704	0.578	0.685	1			
かな得点	-0.201	0.309	0.210	0.174	0.251	0.249	0.292	0.238	0.286	0.240	1		
血圧	-0.017	0.228	0.048	0.085	0.175	0.113	0.072	0.005	0.121	0.019	0.043	1	
脂質	-0.010	0.077	-0.024	0.021	0.057	0.161	0.074	0.087	0.047	0.235	0.038	0.12402	1
貧血	0.186	-0.219	-0.124	-0.091	-0.001	-0.035	0.042	0.086	-0.017	0.095	-0.190	-0.1026	0.100

表1 から、相関値が有意に高かった変数間の関係を考えると、(1)日常生活行動の5つの領域、つまり、仕事数、役立ち数、自由時間における行動数、趣味の数、楽しみの数、の間には、相関値が0.37から0.59にわたっていて、積極的な人はすべての行動領域で高く、関心や興味も多いことがわかる。(2)生きがい満足度は日常生活行動の5つの領域と高いプラスの相関を示し、日常生活行動が積極的な人ほど、生きがい満足度が高いことがわかる。また、満足度のうち、積極満足度との関係が高いことがわかる。(3)かなひろいテスト得点は生きがい満足度、安定満足度、積極満足度と有意な関係にあり、知的水準が高い人ほど生きがい満足度が高いことが分かる。(4)かなひろいテスト得点は、日常生活行動の5つの領域と高いプラスの相関を示し、日常生活行動が積極的な人ほど、知的水準が高いことがわかる。また、(5)ソーシャル・サポート得点と知的水準とはプラスの関係があり、ソーシャル・サポート得点の高い人ほど知的水準が高いことが分かる。(6)過去5年間の時間経過を通して、知的程度の上昇を示した人と変わらなかった人、下降した人との間で、日常生活態度・行動および生きがい満足感において有意に違っており、上昇した人は、生きがい満足度が有意に高く、安定満足度においても積極満足度においても高いことがわかる。

以上のことから、日常生活において、積極的で趣味や楽しみが多く行動的な人ほど心理的に安定し、生きがい満足も高くなり、そのことが他者からのサポートと受けることも多く、結果として、高い知的水準を長く保つことができているのではないかと解釈できる。